

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 令和2年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：NPOとの協働による住民参加型歯科保健推進事業（は～もに～プロジェクト）</p>
<p>2. 申請者名：一般社団法人新潟県歯科医師会</p>
<p>3. 実施組織：は～もに～プロジェクト</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>従来より実施してきた活動のうち、住民参加型歯科保健活動を実施する上で有用と思われるものを選定し、実践報告書を作成した。その際、新規にきっかけを作る際に必要なことを整理し、冊子に組み入れた。また、保育園・幼稚園、小・中学校、地域保健センターなどでの掲示を想定した歯科保健の啓発ポスターを作成した。その際、専門家からの一方的な情報発信ではなく、地域住民からの共感を得られるよう工夫した。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>従来より実施してきた活動のうち、住民参加型歯科保健活動を実施する上で有用と思われるものを選定し、実践報告書を作成した。その際、新規にきっかけを作る際に必要なことを整理し、冊子に組み入れた。</p> <p>まず、冊子を作成するに当たり、きっかけ作りの際に押さえておきたいキーポイントとして、①お口の健康に関する住民の意識は決して低くない。②住民参加によって成果を残すには一定の時間をかけることが必要。③住民参加とは「専門家も参加する」ということを意味している。④First Action は歯科関係者が起こす必要がある。を挙げた。また、きっかけ作りの5つの心得として、①活動の目的（理念）を明らかにする。②共感してくれる仲間を増やす。③専門的な技術や方法論よりもコミュニケーションが重要。④汗をかく。⑤ギブ・アンド・テイクの精神を忘れずに。とし、きっかけができそうなどきの次の一手として、関係する人や組織を繋ぐ。その際、中間支援組織を活用する、ことを挙げた。具体的な実践例として、①歯科保健計画の作成、②保育園・小学校でのイベントを通じた啓発事業（ホワイト・フォー・プロジェクト）、③地域の方々との意見交換会を掲載した。</p> <p>また、保育園・幼稚園、小・中学校、地域保健センターなどの関連する施設、および協力を得られる事業所などにおいて歯科保健への意識啓発を図るために、ポスターを作成した。専門家からの一方的な情報発信ではなく、地域住民からの共感を得られるよう、種々の分野の関係者と意見交換を重ね、デザインを考案・調整した。その要件として挙げられたのは①景色の一部に埋没せず、「目を引く・目に留まる」こと。②地域住民に広く共感を得られること。③内容が見た人の印象に残ること。④最終的な目標は歯科受診率の向上であること。⑤他地域で同様の取り組みを行おうとする際に模倣可能であること。などである。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>本冊子の重要なポイントの一つはきっかけ作りの際に押さえておきたいキーポイントの整理である。今年度は関係者間で意見交換を実施し整理した。しかし、当初は関係者以外の方々にも参加いただきワークショップを開催し意見をまとめる予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、実施することができなかった。次年度、新型コロナウイルス感染症が収まった時点で改めてワークショップの開催を企画したい。</p> <p>保育園・幼稚園、小・中学校などに対して、従来は歯の健康ソングを用いたイベント企画や体験型教室の出展でアプローチを行ってきた。しかし、上記同様に本年は実施を見送ることとなった。一方で、歯の健康への意識啓発に向けた発信を持続的に行うことの必要性に着目し、ポスター作成を行った。作成後の評価として、①1つのデザインだけではインパクトに欠けること。②歯の健康週間などに合わせて期間限定でより強いメッセージを発信するものがあると効果的であること。などが挙がっており、今後の課題がある一方で、種々の分野の関係者からは画像や映像などの媒体を用いて広く発信することの効果を期待する声もあり、「これまでどこで聞けるのか分からなかった」とされる情報へのアクセスを提示できたことは有意義であったといえる。次年度、SNSなども含めた効果的な発信方法を検討したい。</p>